
8 Q & A

(1) 菜の花エコプロジェクトについて

Q : 菜の花エコプロジェクトとは

A : 環境に与える負荷の低減に役立ち、耕作放棄地の解消や美しい景観の保持、さらには、観光資源としても利用できる菜の花を活用し、N P O (特定非営利活動法人) などと協働して資源循環型の地域づくりの一端を担うことを目的とする事業です。

(2) 菜の花栽培について

Q : 農地を借りる (貸す) には、どうすればよいですか。

A : 農地を借りる時は、農林水産事務所農政課または各市町村に問い合わせてください。

Q : 支援制度については、どこに相談すればよいですか。

A : 農林水産部園芸農産課 (平成 1 8 年 4 月からは食育推進課) に問い合わせてください。

Q : 菜の花を栽培するには、どこに相談すればよいですか。

A : 農林水産事務所農政課または各市町村に問い合わせいただければ、相談内容にあった相談先を紹介してくれます。

Q : 菜の花には、どんな品種がありますか。

A : 搾油する品種と、新芽や蕾を食用として利用する品種があります。搾油して食用油とする場合は「キザキノナタネ」、「ななしきぶ」等の品種がありますが、人体に有害といわれるエルシン酸を含んでいないか、毎年検査する必要があります。食用として利用する品種は、景観形成として年内から菜の花を開花させることができる「秋華」、「早陽一号」等があります。(参照 P . 1 3)

Q : 菜の花を 1 2 月から 5 月まで開花させるには、どうしたらよいですか。

A : 蕾を食用として利用する品種「秋華」、「早陽一号」等と菜種品種を組み合わせることにより長期間景観形成として菜の花を開花させることができます。「秋華」、「早陽一号」は 9 月中旬に種まきすると 1 2 月頃から開花します。

Q：種の入手先はどこですか。

A：エルシン酸を含まない菜種品種は、愛知県農林水産部園芸農産課（平成18年4月からは食育推進課）まで問い合わせてください。また、景観形成用の品種については、地元農協や種苗会社に問い合わせてください。

Q：種まきの時期は、いつ頃がよいですか。

A：早まきすると病害虫の被害が大きいのので菜種品種は、10月上旬・中旬頃が、景観形成用の品種は9月中・下旬頃が種まきの適期です。

Q：種まきには、どんな方法がありますか。

A：バラまきとスジまきの方法があります。大面積を省力的に行うにはバラまきが適していますが、発芽や生育が不揃いとなりやすいなどの短所があります。スジまきは、畝立てや種まきに労働力を要しますが、生育が揃いやすく多収穫が期待できます。

Q：病害虫が発生した場合、どんな対策がありますか。

A：菜種には、ハスモンヨトウやアオムシ等の害虫、菌核病や根こぶ病等の病害が発生しますが、菜種の病害虫防除に登録のある農薬はありません。害虫予防は適期かやや遅めに種まきをすること、病害が発生した場合は早めに抜き取って処分することが大切です。

Q：収穫適期は、どのように判断しますか。

A：手刈り収穫とコンバイン収穫で、適期がやや異なります。手刈り収穫の場合、莢がカラカラに乾くまでおくと種子がこぼれるので、莢の中の種子が黒く色づいたときに収穫します。コンバイン収穫では、莢が良く乾いてから収穫します。

Q：収穫後に注意することはありますか。

A：種子の水分が高いとムレて発芽するなど品質が低下しやすいので、速やかに乾燥します。

Q：収穫はどのくらいですか。

A：収穫量は、滋賀県の栽培試験結果では平均179kg/10a、青森県横浜町では平均250kg/10aとなっています。

(3) 搾油について

Q : 搾油量はどのくらいですか。

A : 搾油量は、圧縮法による 1 回の搾油で菜種収穫量の 30 % ほど得ることができます。

Q : 搾油機はどこで借りることができますか。

A : J A あいち女性協議会 (052 - 951 - 3603) に相談してください。

Q : 食用油としてのなたねはどこで商品化されているのですか。

A : 豊田加茂地域では、商品化されています。(参照 P . 24)

(4) 廃食用油燃料について

Q : 廃食用油の燃料化はどのようにして行われますか。

A : 燃料化プラントで精製します。廃食用油 100 リットルをメタノール 20 リットル、触媒として KOH 800 g を添加して反応させます。精製される軽油代替燃料は 100 リットルです。

Q : B D F (バイオ・ディーゼル・フューエル) はどのような特徴がありますか。また、気をつけなければならない点は何ですか。(参照 P . 29、30)

A : B D F とは、植物油から精製した軽油代替燃料で、次のような点が長所といえますが、実用にあたっては、課題もあります。

軽油に比較して、硫黄酸化物、黒鉛は少なくなります。

植物油の廃食用油を利用するので、廃棄物リサイクルになります。

エネルギー枯渇問題の解決策のひとつとなります。

自立した地域循環型社会の構築に貢献できます。

気をつけていただきたい点

廃食用油が原料となる場合、品質にばらつきが出てことがあります。

オイルフィルターの目詰まりや、部品の傷み等が報告されています。

Q : B D F でどの車でも走らせることができますか。

A : 軽油で走っているディーゼルエンジン車であれば基本的に走らせることができます。ゴミ収集車、農耕用トラクター、漁船などの燃料として利用が可能です。

菜の花エコプロジェクトに関するお問合せ

愛知県農林水産部 園芸農産課 TEL 052 - 961 - 2111 (代)

この業務は、本庁組織の見直しにより、平成18年4月1日から農林水産部食育推進課が担当します。

菜の花エコプロジェクト ハンドブック

愛知県農林水産部園芸農産課 〒460-8501 名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

TEL: 052-961-2111 (内線3691・3689) 052-954-6417 (ダイヤルイン)

URL: <http://www.pref.aichi.jp/engei/>

(平成18年3月)

この業務は、本庁組織の見直しにより、平成18年4月1日から農林水産部
食育推進課が担当します。